

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	国際大学
整理番号	B21
構 想 名	I U J E v o l u t i o n ーアジアのグローバル・スタンダードを世界標準へー

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント） 事業期間全体において、“国際”を掲げた大学として事業開始前よりすでに多くの側面で国際化が実現されていた状況を踏まえ、そこに留まることなく、高いレベルの大学独自の定性的指標設定とその達成に向けた各種取組みを通じて、より高度な国際化が進められたものとなっている。事業展開に当たっては、「リンケージプログラム」の実施によって計画を上回る数のアジア諸国大学と協定を結んだだけでなく、独自目標として掲げていたアフリカ諸国における大学との協定校拡大や様々なルートからの留学生の積極的な受入れ等により、戦略的なグローバル展開が進められた。 教育面においては、多国籍の学生・教員が在籍している環境や全寮制といった貴学の特性を活かした「日本・グローバル開発学プログラム」により、各国の若手リーダーと日常的に意見交換できる環境が整備されたことは、日本人学生にとって大変意義のあることであり、各国リーダー達にとっても他国の若手リーダーや政府実務家と触れ合えることは有益であり、グローバルな問題の実践的解決に貢献できるグローバルリーダーの育成に大きく貢献するものと思われる。さらには、英語でのコンテンツ授業が定着しており、AACSB認証を受けて国際的に評価されるなど、世界に繋がる教育水準をしっかりと維持している。 これらの取組みにより、諸外国の大学とのリンク、国際機関や開発援助機関等との関係が拡大・強化され、新たな教育プログラムや学生達のキャリアに繋がるという極めて好ましいサイクルが構築されたことは高く評価できる。 一方で、サステイナブルな大学運営をしていくためにコアとなる日本人学生の獲得は必要であり、留学生の確保についても公的機関に頼らないさらなる取組みが必要であろう。他にも、コロナ禍で一時中断していた「リンケージプログラム」を再開させることができたことは好材料であるが、このプログラムを履修した日本人学生がいないことは大変残念である。「アジアへの日本人学生送り出し」という目標を継続的に達成していくため、更なる改善が望まれる。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	